《履修上の留意事項》面接授業と遠隔授業の併用実施

《担当者名》飯泉智子

【概要】

摂食嚥下リハビリテーションの介入、評価、訓練の実際を学ぶ。

【学習目標】

摂食嚥下リハビリテーションにおける基本的な介入計画を立案する。評価、訓練を実施する。

1. 症例の問題点を整理し、優先的事項を決定する。
2. 複数の情報から、現象の背景となる機能障害仮説を立てる。
3. 摂食・嚥下リハビリテーションの介入計画を作成する。
4. 摂食・嚥下関連器官の運動および感覚の特徴を抽出し、それを適切な表現で記述する。
5. 摂食・嚥下機能検査を適切に行う。
6. 直接訓練、間接訓練の基本的治療手技を実践する。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	オリエンテーション	症例に基づいた学習方法を理解する	飯泉智子
2	摂食・嚥下障害の評価	情報収集 症例学習	飯泉智子
3	摂食・嚥下障害の評価	嚥下造影の読影の基本を習得する	飯泉智子
4	摂食・嚥下障害の評価	嚥下造影の読影基本を習得する	飯泉智子
5	摂食・嚥下障害の評価	嚥下造影の読影基本を習得する 症例学習（嚥下造影検査の読影演習）	飯泉智子
6 ） 7	摂食・嚥下障害の評価	観察・検査結果の解釈の基本を習得する	飯泉智子
8 ） 11	摂食・嚥下障害の評価	評価結果の統合の基本を習得する 症例学習（観察・検査結果の解釈の演習）	飯泉智子
12 ） 13	介入方法	基本的な介入法の基本を習得する	飯泉智子
14 ） 15	技術演習	摂食・嚥下関連器官の機能検査 スクリーニング検査	飯泉智子

【評価方法】

課題100%

【備考】

教科書：才藤栄一 他 監 「摂食嚥下リハビリテーション 第3版」 医歯薬出版 2016年

参考書：藤島一郎 監訳・著 「MASA日本語版嚥下障害アセスメント」 医歯薬出版 2014年

その他：演習科目は臨床的態度、評価、治療手技の習得の場であり、毎回、必ず出席することを前提としている。やむを得ず欠席する場合は、担当教員のメールアドレス宛に事前に連絡し、対応方法について指示を受けること。

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料を持参すること。

画像などの特殊教材を多用するので、受講方法に注意し、指定された物品を必ず持参すること。

担当者連絡先

飯泉智子：i-zumi@hoku-iryo-u.ac.jp

【学習の準備】

摂食嚥下障害学で使用した教科書、配付資料などをよく復習すること。(20分)

レポート等の作成を通じて科学的文章作成能力の向上に努めること。(20分)

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

(DP4) リハビリテーション専門職として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、適切に対処できる実践的能力を身につけます。

【実務経験】

言語聴覚士

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での実務経験を活かし、摂食嚥下障害のリハビリテーションに関する基本的知識および実践について講義する。